

# 農林水産統計

STATISTICS OF AGRICULTURE, FORESTRY AND FISHERIES

平成19年 2月26日公表

## 平成18年産 茶生産量（九州主産県）

摘採面積は前年産並、荒茶生産量は減少

### 【調査結果の概要】

- 九州主産県における平成18年産茶の摘採延べ面積は3万7,200haで、前年産並みとなりました。
- 生葉収穫量は16万2,900tで、前年産に比べ5,700t（3%）減少しました。  
また、荒茶生産量は3万3,300tで、前年産に比べ1,400t（4%）減少しました。

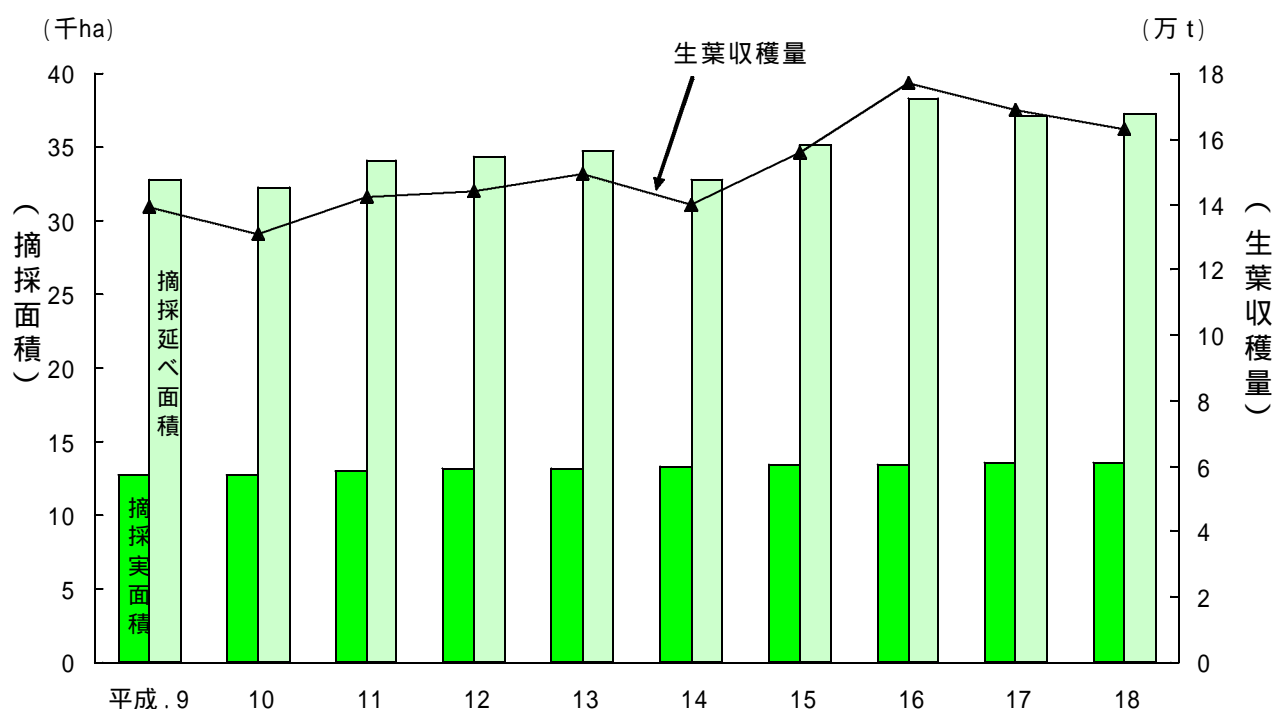


表 1 平成18年産茶の生産状況（九州主産県）

区 分	摘 採 面 積		生葉収穫量	荒茶生産量
	実 面 積	延べ面積		
	ha	ha	t	t
平 . 1 8	13 500	37 200	162 900	33 300
1 7	13 500	37 100	168 600	34 700
対前年比(%)	100	100	97	96

九州主産県とは、大分県を除く九州6県です。

図 1 摘採面積と生葉収穫量の推移（九州主産県）



【 解 説 】

1 摘採面積

茶の摘採延べ面積は3万7,200haで前年産並みでした。

これは、一番茶は前年産並み、二番茶は前年産に比べ400ha(4%)増加したものの、三番茶以降の摘採が価格の低迷等により減少しました。

2 生葉収穫量

生葉収穫量は16万2,900tで、前年産に比べ5,700t(3%)減少しました。

これを茶期別にみると、一番茶は3月～4月の低温の影響により前年産に比べ芽数が少なく生育も緩慢となったため4,000t(6%)減少しました。

しかし、二番茶は、少雨や害虫の影響で少なかった前年産に比べ4,200t(9%)増加しました。

また、三番茶以降は摘採面積の減少等によりかなり減少しました。

3 荒茶生産量

荒茶生産量は3万3,300tで、前年産に比べ1,400t(4%)減少しました。

これを茶種別にみると、かぶせ茶が1,570t、普通せん茶が2万3,300t、玉緑茶が3,110t、番茶が5,240tで、前年産に比べ、それぞれ110t(7%)、600t(3%)、210t(6%)、480t(8%)減少しました。

表 2 茶期別の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量 (九州主産県)

区 分		計	一番茶	二番茶	三番茶	四番茶・ 冬春秋番茶
摘採延べ面積(ha)	平 . 1 8	37 200	13 500	10 700	6 980	6 010
	1 7	37 100	13 400	10 300	7 320	6 220
	対前年比(%)	100	101	104	95	97
生葉収穫量 (t)	平 . 1 8	162 900	63 100	51 300	29 900	18 600
	1 7	168 600	67 100	47 100	33 800	20 800
	対前年比(%)	97	94	109	88	89
荒茶生産量 (t)	平 . 1 8	33 300	12 600	10 300	6 020	4 410
	1 7	34 700	13 500	9 410	6 990	4 850
	対前年比(%)	96	93	109	86	91

表 3 茶種別荒茶生産量 (九州主産県)

区 分	計	玉 露	かぶせ茶	てん茶	普通せん茶	玉 緑 茶	番 茶	その他
	t	t	t	t	t	t	t	t
平 . 1 8	33 300	88	1 570	17	23 300	3 110	5 240	6
1 7	34 700	83	1 680	16	23 900	3 320	5 720	8
対前年比(%)	96	106	93	106	97	94	92	75

【統計表】

1 摘採実面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

区 分	摘採実面積		摘採延べ面積		生葉収穫量		荒茶生産量		
		対前 年比		対前 年比		対前 年比		対前 年比	
	ha	%	ha	%	t	%	t	%	
主産県計									
平	14	13 300	101	32 800	94	140 000	94	28 100	93
	15	13 400	101	35 100	107	156 200	112	31 300	111
	16	13 400	100	38 300	109	177 300	114	36 300	116
	17	13 500	101	37 100	97	168 600	95	34 700	96
	18	13 500	100	37 200	100	162 900	97	33 300	96
福 岡		1 430	99	2 430	100	11 100	100	2 290	101
佐 賀		956	99	2 010	99	8 830	100	1 930	95
長 崎		647	102	1 320	96	4 700	94	876	90
熊 本		1 430	98	2 300	98	8 670	93	1 760	92
宮 崎		1 310	100	3 140	91	15 100	85	3 110	85
鹿 児 島		7 750	101	26 000	102	114 500	98	23 300	97

注：主産県計については、九州主産県の合計である。（以下の各統計表において同じ）

2 茶期別摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量

区 分	一 番 茶			二 番 茶			三 番 茶			四 番 茶・冬春秋番茶			
	摘 採 面 積	生 葉 収 穫 量	荒 茶 生 産 量	摘 採 面 積	生 葉 収 穫 量	荒 茶 生 産 量	摘 採 面 積	生 葉 収 穫 量	荒 茶 生 産 量	摘 採 面 積	生 葉 収 穫 量	荒 茶 生 産 量	
	ha	t	t	ha	t	t	ha	t	t	ha	t	t	
主産県計													
平	14	13 300	63 000	12 400	9 840	42 700	8 510	6 020	23 300	4 670	3 650	11 100	2 490
	15	13 300	67 200	13 200	9 810	43 400	8 490	6 550	27 100	5 450	5 410	18 500	4 160
	16	13 300	63 500	12 600	10 500	50 900	10 100	7 320	37 500	7 720	7 180	25 400	5 880
	17	13 400	67 100	13 500	10 300	47 100	9 410	7 320	33 800	6 990	6 220	20 800	4 850
	18	13 500	63 100	12 600	10 700	51 300	10 300	6 980	29 900	6 020	6 010	18 600	4 410
福 岡		1 430	6 720	1 360	785	3 590	763	135	547	113	77	255	55
佐 賀		956	4 270	921	785	3 750	827	219	710	157	48	98	22
長 崎		647	2 510	465	526	1 730	322	134	404	76	16	54	13
熊 本		1 430	5 350	1 070	645	2 470	513	190	754	158	31	97	22
宮 崎		1 290	6 560	1 340	969	4 840	981	607	2 760	571	275	915	222
鹿 児 島		7 750	37 700	7 450	6 960	34 900	6 860	5 690	24 700	4 940	5 560	17 200	4 080

3 茶種別荒茶生産量

区 分	計	緑 茶							番 茶	その他
		小 計	覆 い 茶			せ ん 茶				
			玉 露	かぶせ茶	てん茶	普通せん茶	玉緑茶			
	t	t	t	t	t	t	t	t	t	
主産県計										
平	14	28 100	28 100	91	1 780	8	19 900	3 250	3 160	2
	15	31 300	31 300	91	1 880	9	21 600	3 090	4 690	8
	16	36 300	36 300	83	1 730	7	24 800	3 580	6 170	9
	17	34 700	34 700	83	1 680	16	23 900	3 320	5 720	8
	18	33 300	33 300	88	1 570	17	23 300	3 110	5 240	6
福 岡		2 290	2 290	86	419	5	1 740	-	40	-
佐 賀		1 930	1 920	1	400	-	439	1 040	42	3
長 崎		876	876	-	272	-	17	451	136	0
熊 本		1 760	1 760	1	28	2	851	874	2	0
宮 崎		3 110	3 110	-	10	10	2 420	392	278	1
鹿 児 島		23 300	23 300	-	442	-	17 800	349	4 740	2

## 【利用上の注意】

- 1 表中に用いた「0」は単位未満のものを、「-」は事実のないものを示します。
- 2 計と内訳が一致しないのは、四捨五入のためです。

原 数		6 けた ( 10万 )	5 けた ( 万 )	4 けた ( 1 000 )	3 けた以下 ( 100 )
四捨五入するけた数 ( 下から )		2 けた		1 けた	四捨五入 しない
例	四捨五入する前 ( 原数 )	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した後 ( 統計数値 )	123 500	12 300	1 230	123

## 【調査の仕様】

- 1 調査の目的  
本統計調査は、茶の生産に関する実態を明らかにし、各種行政施策の推進などの農林行政の基礎資料を整備することを目的に実施しています。
- 2 調査の対象  
主産県とは、全国の荒茶生産量のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県に加えて、畑作物共済事業を実施する都道府県です。
- 3 調査期間  
標本工場に対する面接調査は平成18年12月1日現在です。
- 4 調査方法  
センター職員による荒茶工場に対する面接調査（標本調査）、作況基準筆調査結果に基づく巡回・見積りを行っています。
- 5 調査客体数  
面接調査：352 標本工場 基準筆調査：48 筆
- 6 集計方法  
九州主産県の結果を積み上げ集計しました。
- 7 用語の解説  
摘採面積：茶栽培面積のうち、収穫を目的として摘採した面積です。  
茶期区分：茶期は、各地域によって異なっており、各茶期の区分は通常その市町村の慣行による茶期区分を用いました。ただし、全国的な標準茶期区分は、下記のとおりです。  
なお、冬春秋番茶とは、統計作成上、冬春番茶と秋冬番茶とを合計したものです。

茶期別	区 分	茶期別	区 分
一番茶	3月10日 ~ 5月31日	四番茶	9月11日 ~ 10月20日
二番茶	6月1日 ~ 7月31日	秋冬番茶	10月21日 ~ 12月31日
三番茶	8月1日 ~ 9月10日	冬春番茶	1月1日 ~ 3月9日

荒茶：茶葉（生葉）を蒸熱、発酵、揉み操作、乾燥等の加工処理をし、製造されたもので、仕上げ茶として再製する以前のものをいいます。また、その加工重量を荒茶生産量といいます。

#### 荒茶の茶種

玉露：一番茶の摘採期前に茶樹の上部及び側面をよしず、むしろ、化学繊維等で覆い、ほぼ完全に日光を遮った覆下茶園より摘採した茶葉（新芽）を蒸熱、揉み操作、乾燥して製造したものをいいます。

かぶせ茶：一番茶の摘採期前に1～2週間にわたって、化学繊維、よしず、むしろ等で簡易な遮光をした覆下茶園より摘採した茶葉を蒸熱、揉み操作、乾燥して製造したものをいいます。

てん茶：玉露と同じく覆下茶園より摘採した茶葉を蒸熱し、揉まないで乾燥して製造したものをいい、まっ茶の原料となるものです。

普通せん茶：普通の茶葉（自然光下で栽培し、摘採した茶葉）を蒸熱、揉み操作、乾燥して製造したものをいいます。

玉緑茶：普通の茶葉（自然光下で栽培し、摘採した茶葉）を蒸熱又は釜炒りし、強く揉まず、乾燥して製造したもので、まが玉形やこれに準ずる形状をしています。

番茶：硬くなった新芽（葉）や整枝の目的で刈り取った茎、古葉を原料に蒸熱、揉み操作、乾燥して製造した大型の茶をいい、番茶を強火で炒って焦香をつけたほうじ茶を含みます。

その他：食品加工用茶、紅茶等です。

全国の主産県調査結果は、農林水産省ホームページ中の農林水産統計データに掲載しています。

<http://www.maff.go.jp/tokei.html>

分野別分類は「作付面積・生産量、家畜頭数など」、品目別分類は「工芸農作物」に分類しています。

#### 【関連リンク】

九州農政局ホームページ>統計>公表一覧

[http://www.kyushu.maff.go.jp/toukei/ht\\_all.html](http://www.kyushu.maff.go.jp/toukei/ht_all.html)

#### 【掲載内容に関するお問い合わせ先】

本統計調査結果について

連絡先：九州農政局 統計部

生産流通消費統計課 生産統計第1係

電話：(代) 096-353-3561 内線 4753

直通電話： 096-353-7574

農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局 統計部

統計企画課 企画第2係

電話：(代) 096-353-3561 内線 4723

直通電話： 096-353-7556